

農作物技術情報 第3号 果 樹

発行日 平成29年 5月25日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ りんごの開花は平年よりやや早まりました。開花期間中、暖かい日が続きましたが、風が強く、まとまった降雨もあったため、地域や品種によっては中心果の結実に不安が残る場合があります。結実の状況を慎重に見極め、摘果作業を早めに行いましょう！
- ◆ ぶどうの生育はほぼ平年並となっています。今後の気温の推移では生育が進むことも考えられますので、計画的に開花期前後の管理を進めましょう！
- ◆ 今年は春先から降水量が少なく、乾燥傾向で経過しています。特に生育不良になりやすい今春定植した苗木や幼木を中心として、定期的に灌水を行いましょう！

りんご

1 生育概況

県内の定点観測調査結果によると、りんごの開花は、平年より2日程度早めで、生育が早かった昨年より3日程度遅い生育進度となっています(表1)。展葉期時点でほぼ平年並の生育進度でしたが、開花直前の5月上旬が高温となり、生育が促進されたためと考えられます。この高温の影響からか、今年の開花は例年よりも、品種間・地域間の差が少ない状況となりました。

開花数は比較的多かったものの、開花期間中、風が強くまとまった降雨もあったため、特に10日前後に満開期を迎えた地域や品種では、結実への影響も懸念されます(図1)。

また、4月下旬から開花前にかけて、最低気温が平年を大きく下回った日があり、特に4月24日の影響と推察される花器への被害も確認されています。直接的な被害は無くとも、果形不良やサビ果が発生する可能性もありますので、摘果の際には注意が必要です。

表1 定点観測地点の「ふじ」の開花状況

市町村 地区	開花始(月/日)			満開期(月/日)			落花期(月/日)			開花期の平年・前年差(±日)					
										開花始		満開期		落花期	
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	平年差	前年差	平年差	前年差	平年差	前年差
岩手町一方井	5/10	5/11	5/9	5/15	5/14	5/13		5/19	5/16		-1	1	1	2	
盛岡市三ツ割	5/7	5/8	5/4	5/9	5/12	5/8	5/15	5/16	5/13	-1	3	-3	1	-1	2
紫波町長岡	5/6	5/7	5/3	5/8	5/10	5/6	5/14	5/15	5/11	-1	3	-2	2	-1	3
花巻市上根子	5/5	5/6	4/30	5/8	5/10	5/5	5/13	5/14	5/9	-1	5	-2	3	-1	4
北上市更木	5/4	5/6	4/27	5/7	5/9	5/3	5/11	5/14	5/8	-2	7	-2	4	-3	3
奥州市前沢区稲置	5/3	5/3	4/27	5/6	5/7	5/4	5/11	5/11	5/8	0	6	-1	2	0	3
奥州市江刺区伊手	5/7	5/8	5/3	5/11	5/12	5/6	5/16	5/17	5/11	-1	4	-1	5	-1	5
一関市花泉町金沢	5/5	5/5	4/30	5/7	5/8	5/5	5/13	5/13	5/10	0	5	-1	2	0	3
一関市大東町大原	5/5	5/7	4/30	5/9	5/11	5/6	5/15	5/16	5/10	-2	5	-2	3	-1	5
陸前高田市米崎	5/3	5/4	4/27	5/6	5/9	5/3	5/11	5/14	5/9	-1	6	-3	3	-3	2
宮古市崎山	5/5	5/7	5/2	5/8	5/12	5/5	5/15	5/17	5/9	-2	3	-4	3	-2	6
岩泉町乙茂	5/5	5/7	5/1	5/8	5/11	5/4	5/14	5/17	5/8	-2	4	-3	4	-3	6
洋野町大野	5/9	5/12	5/8	5/13	5/16	5/12	5/19	5/21	5/17	-3	1	-3	1	-2	2
二戸市金田一	5/5	5/8	5/4	5/10	5/12	5/8	5/15	5/16	5/13	-3	1	-2	2	-1	2
県平均(参考)	5/5	5/7	5/1	5/8	5/10	5/6	5/14	5/15	5/10	-1.4	3.9	-2.0	2.6	-1.5	3.5

2 摘果

(1) 結実状況と摘果の進め方

本年は、総じて開花数が多いことから、凍霜害や不受精果の発生がない場合は結実量が多くなり、収穫時の小玉化が懸念されます。そこで、あら摘果をできるだけ早め(満開30日頃まで)に行き、果実の生育を助けるとともに、隔年結果を防ぐことが重要です(図2)。

それぞれの園地の状況を確認し、品種構成や労力等に応じた作業スケジュールを立て、計画的に摘果作業を進めましょう。

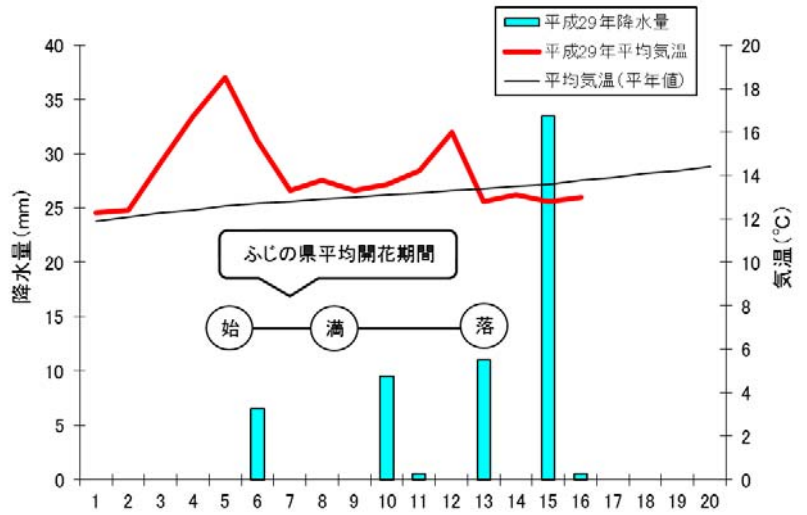


図1 県内りんご開花期間中(5月)の気象経過 (アメダス盛岡観測点)

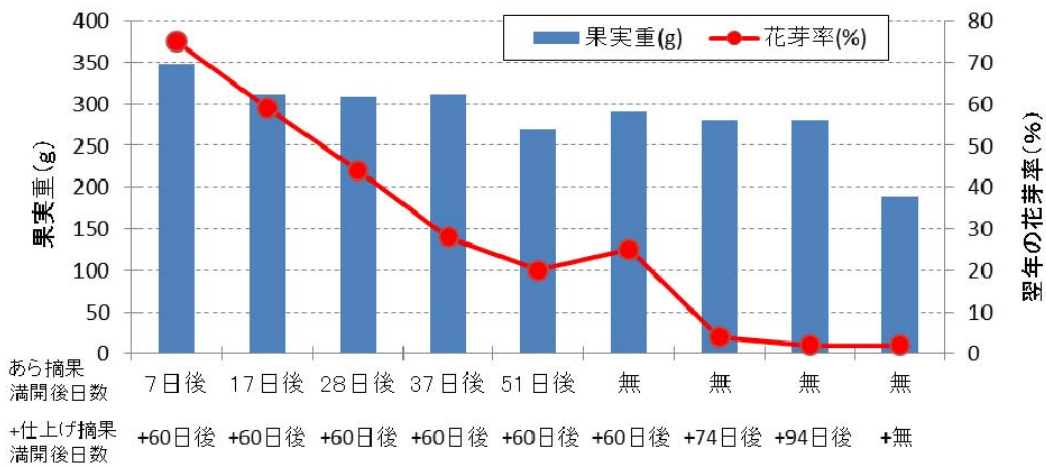


図2摘果時期が「ふじ」の果実重及び翌年の花芽率に及ぼす影響 (長野果樹試 平成12~13)

(2) 摘果の留意点

- ア 最初に、1果そう1果とする予備摘果を実施します。その際、不要な果そうの果実を積極的に除いていきます。その後、果実肥大や品質を確認しながら仕上げ摘果を進めます。
- イ 摘果終了の目安は表2の通りで、今年はほぼ平年並の開花期であることから、落花3.0日後は6月中旬になります。作業を計画的に進め、早期摘果を心がけてください。
- ウ 三角実や扁平果など、果形の悪い果実、病虫害果、傷果を中心に摘果していきます。
- エ 果実は横の発育が良く、果硬が太くて長い正形果を残します。
- オ 果台が極端に長いもの(25mm以上)や短いもの(10mm以下)は、斜形果の発生割合が高くなるので、できるだけ摘果します。

表2 品種別作業手順

項目	品種	摘果完了時期
早期に行う品種	ふじ、王林、きおう、さんさ	落花25日後
後期に行う品種	つがる、ジョナゴールド、紅玉	落花30~35日後

3 病虫害防除

(1) 病虫害防除所の発生現況情報（平成29年4月27日発行）によると、ほとんどの病虫害は平年並から少ない状況ですが、そのなかで果樹カメシ類の越冬量が例年より極めて多く確認されています。落花期以降、園地への越冬成虫の飛来が多くなるので発生状況に注意し、大量の飛来が確認された場合、ただちに効果の高い薬剤を特別散布してください。

また、腐らん病の発生園地では、病患部を発見次第、切除、削り取るなど処置を施します。

(2) 斑点落葉病や褐斑病、炭疽病は、これから梅雨期に入り、感染が増加する時期ですので、天気予報等を参考に降雨前の予防散布に努めましょう。

ハダニ類は気温の上昇とともに増える可能性があり、新梢葉で寄生葉率が30%に達したら、速やかに防除を行ってください。

(3) ヒメボクトウの被害が、県中南部を中心に広がっています。平成28年度に、フェンプロパトリンエアゾル剤(商品名:ロビンフード)を6月上旬までに食入孔へ噴射することで(図3)、樹体内に食入したヒメボクトウ幼虫による被害を効果的に防ぐことができる、との研究成果が示されました。被害を確認した場合は、本方法で積極的に防除を実施してください。



図3 食入孔へのエアゾル剤の噴射（容器は製品と異なる）

ぶどう

1 生育概況（表3）

紫波町赤沢の定点観測によると、4月中下旬が平年並の気温で経過したことから、発芽期はほぼ平年並で、前年より7日遅い生育進度となりました。また、5月上旬の気温が高めで経過したため、発芽以降の生育は早まり、展葉期で平年より2日早く、前年より1日遅い生態（前年はこの時期低温となって生育が停滞）となっています。

5月15日時点の新梢生育は、この時期気温が高かった昨年より遅れているものの、平年の5月25日のデータから推察すると、概ね平年並の新梢生育になっていると考えられます。

これから開花期にかけては管理作業が重なり忙しくなります。計画的に作業を進めましょう。

表3 ぶどう定点観測調査地点における生育調査結果

（紫波町赤沢、キャンベルアーリー、短梢）

調査年次	生態(月/日)					新梢生育			
	発芽期	展葉期	開花期			5月15日		5月25日	
			開花始	満開期	落花期	新梢長 (cm)	節数 (葉数)	新梢長 (cm)	節数 (葉数)
本年(H29)	5/4	5/8				6.9	2.3		
平年	5/3	5/10	6/14	6/17	6/21	-	-	26.6	5.0
前年(H28)	4/27	5/7	6/7	6/6	6/13	10.1	2.8	39.7	5.4
平年差・比	1	-2							
前年差・比	7	1				68%	82%		

2 管理の要点

(1) 新梢の誘引

展葉7～8枚頃に、2回目の芽かき作業に合わせて良く伸びた新梢から誘引します。

(2) 花穂の整理

「キャンベルアーリー」は、開花前に3穂着生している新梢については、1穂落として2穂とし、全体で目標着房数の1～2割増の着生数とします。

「紅伊豆」は、最終房数は1新梢1房とします。摘房の時期は、新梢の強弱を判断して強勢のものほど摘房を遅らせ、着色期を目途に最終着房数とします。

(3) 花振るい防止

ア 「キャンベルアーリー」は、強めの新梢を開花7～4日前に房先5～7枚の葉を残して摘心します。

イ 大粒種で花振るいが強い品種や園地では、メピコートクロリド液剤（フラスター液剤）を使用することにより花振るいを軽減できます。使用する際は、登録内容を十分に確認し、使用時期や希釈倍率に注意して使用してください。

(4) 花穂の整形（図4）

ア 「キャンベルアーリー」では、摘心作業と同時に花穂の副穂を切除し、下端を切り詰めます（尻止め）。また、主穂が長すぎる場合は上段の枝梗を1～2段切除します。

イ 「紅伊豆」などの大粒種は、1～2輪開花し始めた頃から先端部を切り詰めます。「紅伊豆」では副穂を切除し、主穂の基部から4～6段を切除して10～13段程度を残すように整形します。

ウ 「サニールージュ」では開花初期（副穂の開花が始まった頃）に副穂を除去し（長い花穂は上部支梗を1～3段除去）、花穂の長さを概ね7～8cmとします。なお、花穂の先端は切り詰めません。

エ 「シャインマスカット」では開花初期（副穂の開花が始まった頃）に副穂と上部支梗を切除し、花穂の長さを概ね4cmとします。花穂の先端は切り詰めません。また、花穂先端が2つに分かれ使えない場合は、第1枝梗を利用します。

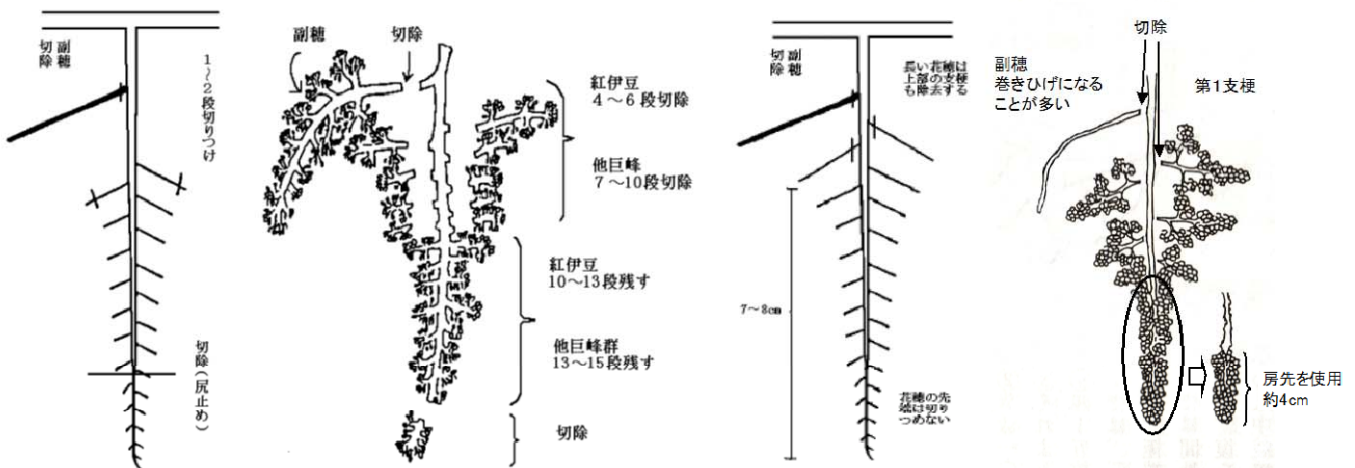


図4 花穂の整形（左からキャンベルアーリー、紅伊豆等大粒種、サニールージュ、シャインマスカット）

(5) ジベレリン処理

無核化のために「安芸クイーン」などの「巨峰系4倍体品種」、「サニールージュ」、「シャインマスカット」へのジベレリン処理は遅れないようにしましょう。また、「シャインマスカット」では、満開予定日の14日前～開花始期までの間にストレプトマイシン液剤（商品名：アグレプト液剤、ストマイ液剤20）を散布するか、1回目のジベレリン処理時に併用することで無核化率が向上します。

なお、ジベレリンやストレプトマイシン液剤を使用する際は登録内容を確認してください。

(6) 摘粒

ア果粒肥大を促し、裂果や病害の誘発を防ぎ、着色向上など品質確保に不可欠な作業です。

果粒の大きさが小豆から大豆くらいの大きさとなる満開後30日以内に終了するのが目標です。

イ1果房当たり「キャンベルアーリー」、「ナイアガラ」は70粒程度、「サニールージュ」は50

粒程度とし、二つ折りになる状態を目安に行いますが、縦に1～2列（2列の場合は表側1列と裏側1列）摘粒する方法や段抜きなどの簡便法もあります（図5）。
 ウ「紅伊豆」、「ハニーブラック」は1果房当たり30～40粒、「安芸クイーン」は25～30粒、「シャインマスカット」は40～50粒程度とします。最上位に4粒程度着粒させ、下部に行くほど徐々に着粒数を減らし、下端は1粒となるようにします（図6）。

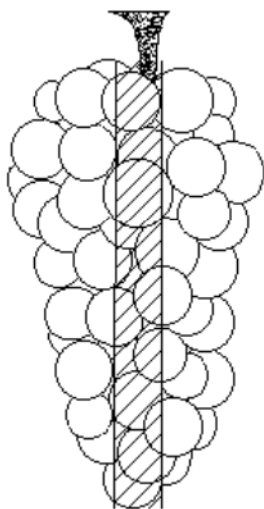


図5 「キャンベルアーリー」、「ナイアガラ」、「サニールージュ」等の摘粒方法
 （2列抜く場合は、表と裏を1列ずつ抜く）

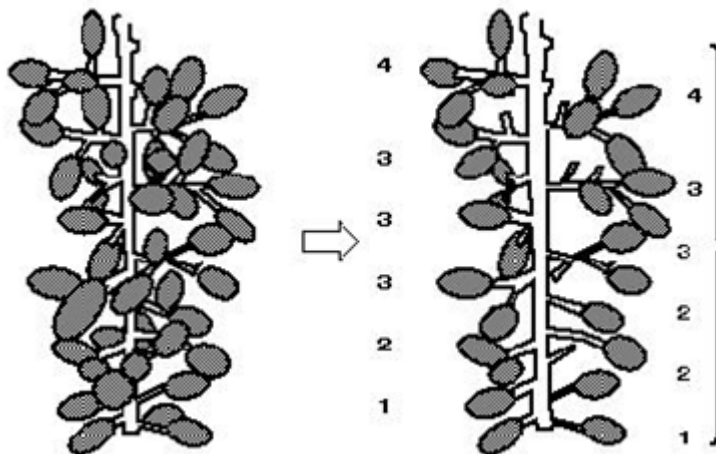


図6 紅伊豆の摘粒方法

3 病虫害防除

- (1) ぶどうの開花期前後は、灰色かび病の発生時期です。生育ステージに合わせて、適期防除に努めましょう。なお、灰色かび病等の薬剤抵抗性回避のため、同一系統薬剤の連用はしないよう注意してください。
- (2) 露地栽培で有袋栽培をする場合、防除後、薬剤が乾いたら速やかに袋かけをしましょう。

果樹共通

まとまった雨が1週間以上ない場合には、灌水の実施を検討しましょう。特に幼木は根量が少なく、乾燥の影響を受けやすいため、優先して実施ください。

また、養水分の競合を避けるため草生を短く維持し、樹冠下に刈草やわら等でマルチします。畑地灌漑施設の整備が進められている地域では、適宜灌水を実施します。

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]

いつもの慣れが落とし穴 急がずあせらず 農作業安全

「山火事警戒宣言発令中」

次号は6月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。